

日蓮大聖人御書全集

ちようらくじ

ごじよう

長樂寺への御状

新版
865

ちようらくじ じよう

長樂寺への御状

ぶんえい ねん がつ にち さい ちようらくじ

文永5年('68) 10月11日 47歳 長樂寺

もうここくじようぶく

蒙古国調伏のことについて、方々へ披露せしめ候い畢

すで にちれん りつしようあんこくろん かんが かつがた ひろう そうら お

わんぬ。既に、日蓮、立正安国論に勘えたるがごとく符合

はや じゃほう じゃきよう す じつぼう じつきよう き

せしむ。早く邪法・邪教を捨てて、実法・実教に帰すべ

おんもち こんじよう くに ほろ み うしな

し。もし御用いなくんば、今生には国を亡ぼし身を失い、

ごしよう かなら ならく お

後生には必ず那落に墮つべし。

すみ いっしょ あつ だんごう と ひようぎ たま

速やかに一処に集まって談合を遂げ、評議せしめ給え。

にちれんしよき ごほう ね ぞん

日蓮庶幾せしむるところなり。御報によつてその旨を存ず

そうろう

しよしゅう

べつじよ

べく候のところなり。あえて諸宗を蔑如するにあらず。

くに あんたい そんな

きょうきょうきんげん

ただこの国の安泰を存するばかりなり。恐々謹言。

ぶんえいごねんじゅうがつじゅういちにち

にちれん かおう

文永五年十月十一日

日蓮 花押

きんじょう ちようらくじじ しおんちゅう

謹上 長樂寺侍司御中